

## 自分にできること

高一

私は、いじめや子供の人権について考えました。私は、昔いじめられていた経験があります。そのときはすごく辛くて、生きているのが嫌になることがたくさんありました。そのことが原因で自殺を考えたこともありました。すごく辛くて毎日が苦しかったのに、私はある日、いじめられる側ではなく、いじめる側になっていました。

小学生のとき、集団で一人の女の子をいじめている男の子たちがいました。私は最初、見て見ぬふりをしていました。その女の子に対してのいじめがエスカレートしていき、私は男の子たちに、「お前もきもいと思うよな。」

と言われました。最初、私は苦笑いしていましたが、いつしか自分もその中の一員になっていました。「やらなきや逆に自分がいじめられるから。」そんなことばかり考えていました。無我夢中でやっていました。自分がされていて、どれだけ辛くて苦しいかが分かっていたのにもかかわらず、いじめてしまうなんて思ってもみなかったです。

今、その子は、会ったら手を振ってくれるし、話しやすい友達でいてくれています。そのことをきっかけに、もういじめはやめよう、見て見ぬふりもいじめと同じ、自分がされて嫌なことは他人には絶対にしないと決めました。見て見ぬふりとはとても簡単で、誰にもできてしまいます。人が苦しんでいるのが見えているのに、助けられない自分が情けなく感じました。「一瞬の勇氣、一生の後悔」という言葉があります。ほんの数文字の言葉、簡単な言葉で大切な命を救うことができるかもしれないし、反対にそのようなささいな言葉で、何よりも大切な命を奪ってしまうかもしれません。

私は、人の気持ちは理解できないと思います。例えば、誰かから頭が痛いと言われたとき、痛いことは分かります。しかし、どのように痛いのか、どのくらい痛いのか、そこまでは分かりません。だからといって、全ての人が同じ痛みを経験しろといっても無理な話です。だから、私は分かるうとする気持ちや、寄り添う気持ちがとても大切だと思いました。

いじめは、言葉で表すとたったの三文字ですが、実際は重く苦しい凶器です。思わず軽く言った言葉がナイフより鋭くなって相手の心をえぐり

ます。たった三文字が、その人の人生を変えてしま  
うのです。命も奪ってしまふとても残酷なもの  
になるのです。だから私は、そのような人がいた  
ら傷つける側ではなく、助ける側の人間になりた  
いと思います。